豊島区立
13.9.11
郷土資料館

ZOSHIGAYA MISSIONARY MUSEUM

雑司が谷旧宣教師館だより

第２１号
2001年８月25日発行

豊島区立雑司が谷旧宣教師館
〒171-0032　東京都豊島区雑司が谷1-25-5　☎ＦＡＸ(03)3985-4081

平成13年度東京文化財ウィーク参加・地域資料公開事業

「ユーモアと哀感の絵てがみ展」開催

―― 岡野誠、戦地からの絵手紙展 ――

［期間］ 平成13年10月２日（火）～12月２日（日）　9:00 ～ 16:30
（休館：月曜（祝日は開館）第３日曜・祝日の翌日）
［場所］ 雑司が谷旧宣教師館本館・付属棟研修室　　**入館無料**
［主催］ 豊島区立雑司が谷旧宣教師館 **［協力］**「雑司が谷界隈」

「内地の兵営にて」
相変わらずこんな事が行われていますね。兄さんは丈夫ですか。私は何時も家の人達に心配かけてすまなく思っています。自分は丈夫です。暑さもやっと凌ぎ易くなりました。何卒お大切に除隊も最早 100日となりました。
（はがきの文面から。蹴っている上官が犬の顔になっています）

＊期間中、会場にて展示説明会を行います。「雑司が谷界隈」矢島勝昭氏
・１回目：10月６日（土）・２回目：11月３日（土）共に14:00 ～ 15:00

「岡野誠、戦地からの絵手紙展」開催にあたって

岡野誠について

岡野誠は1908（明治41）年生まれ。雑司が谷で育ち、画家を志望していました。二十歳で入隊し、日中戦争にも従軍。内地の兵営や中国大陸から独特のタッチで描いた絵はがきを家族らに送り続けました。表紙や右の絵のように上官からの体罰などもユーモアを織りまぜて表現しています。しかし岡野は1939（昭和14）年除隊のわずか三ヵ月後、目白駅で自らの命を絶ちます。

遺族がいつか画集を作ろうと、葉書やスケッチを回収したものが 200点余りになりました。厳しい兵役生活や風俗を哀歓を交えて描いた絵は、当時の様子がわかる貴重な地域資料といえるでしょう。

開催経緯

「こういう時代があったことを今の人達に知ってほしい、雑司が谷に住んだ岡野さんの絵を多くのひとに見てほしい」、縁あって岡野の絵を譲り受けた矢島勝昭氏はずっとそう思い続けてきました。

「地域の記憶を語りつぐ場であり、戦禍を免れ、住民の保存運動で残された雑司が谷旧宣教師館で、絵の展示が出来ないだろうか」と矢島氏より提案があり、今回の展示が実現しました。たくさんの方々のご来館をお待ちしています。　（文責　浜地）

あゝ！！
トマトが喰いたい
熊谷の大カツ、コロッケ
喰いたい　喰いたい　（文中より）

夏季講座の報告

草木染とブルーベリー摘みを楽しもう！

中庭のサクラはチップにして、ビワの葉、タマネギの皮で草木染をしました。7月27日（金）参加者大人11名。どんな色に染まるかと不安のようでした。ところが思いきって染液の中に真っ白なシルクのスカーフを入れると、「ビワの葉っぱからビワの実の色が出てる！」と驚きの声。媒染液で色が変わるのに驚きながら、自然のグラデーションを堪能しました。

8月1日（水）子ども14人。ハンカチ染色。輪ゴム，ビー玉，割り箸等を使って模様付け。両日とも館内見学後はお待ちかねのブルーベリー摘み。この日のためにカラス・モズの襲来と知恵比べし実守った甲斐あって、小袋いっぱいに収穫する人も。ジャムになるのか、ブルーベリー酒を作るのか、「また来たい！」と皆さん大喜びでした。来年はあなたの参加を待っています。　（角　田）

講演会のお知らせ

窪島誠一郎氏は長野県上田市に、戦没画学生の遺作を集めた「無言館」を創設しました。「ユーモアと哀感の絵てがみ展」開催にあわせて、窪島氏が無言館を開館した経緯やご苦労そして戦没画学生たちに寄せる思いを「生と死の画家たち」という演題でお話していただく予定です。

平成13年度東京文化財ウィーク参加企画事業

窪島誠一郎講演会

無言館（長野県上田市）館主・作家

「生と死の画家たち」

◇日　時　平成13年10月20日（土）14:00 ～ 16:00
◆場　所　雑司が谷区民集会室（児童館内）（豊島区雑司が谷1-22-8）
◇定　員　５０名
◆受講料　無　料
◇往復葉書に住所，氏名，年齢，電話番号をご記入の上、下記宛にお申し込みください。希望者多数の場合は抽選となります。
〒171-0032　豊島区雑司が谷1-25-5　　豊島区立雑司が谷旧宣教師館
講演会宛　10月10日（水）必着　　(03)3985-4081
◆交　通　　営団有楽町線東池袋下車⑤出口より徒歩７分

「無言館」のこと&窪島誠一郎氏のこと

「無言館」

第二次界大戦に応召し志半ばで倒れた美術学校の若い画学生たちの作品を、画家の野見山暁治氏の協力を仰ぎ、信濃デッサン館(*1)館主の窪島誠一郎氏が国中に散らばる遺族等を訪ね歩いて、ついに完成させたのが無言館です。

無言館は館主の夭折の画家たちへのこだわり、『祈りの画集』(*2)という先行の記録の存在、窪島氏に賛同した全国の有志の寄付金と上田市からの土地の提供によって開館にこぎつけたといいます。信州の鎌倉と呼ばれる塩田平を一望する前山寺の東隣に僧院のような形をして建つ無言館。戦場に赴く前に描き遺こされた痛哭の一枚。静謐な館の中には三十三人の絵画やブロンズ像、書簡や画材などが展示してあります。

(*1)信濃デッサン館・長野県上田市にある村山槐多、関根正二、靉光らの夭折画家の素描を展示する美術館。1979年開館。

(*2)『祈りの画集・戦没画学生の記録』野見山暁治著（1977年）、著者の同窓・東京美術学校（現東京芸術大学）の戦没者、五十三名の遺族を訪ね歩いた報告書。

講師紹介

窪島誠一郎氏は1941年東京生まれ。印刷工、店員などをへて、1965年東京世田谷に小劇場の草分けともいえる「キッド・アイラック・アート・ホール」を設立。1987年ニューヨーク州ウッドストックに「野田英夫記念美術館」を設立。

主な著作として実父水上勉との再会を綴った『父への手紙』（筑摩書房）『信濃デッサン館日記１・２・３』（平凡社）『鼎と槐多』（信濃毎日新聞社）『無言館　戦没画学生「祈りの絵」』（講談社）最新作『無言館ノオト』（集英社新書）など多数あります。　　（　浜　地　）

――― 周辺の名建築Ⅴ ―――

目白駅にほど近い閑静な住宅の中にあり、春には桜の花がとても綺麗で建物に風情をあたえてくれます。

徳川黎明会

徳川黎明会は尾張徳川家に代々伝わる書籍・古文書記録類や書画・古美術品等を、保存し研究するため第19代侯爵徳川義親により設立された財団です。

この建物は義親の邸宅の一角におかれた財団本部で、文庫と徳川林政史研究所が併設されています。木々に囲まれた建物は鉄筋コンクリート造りで、外観はスクラッチタイル仕上げ。1階部分の大半は銀座和光・日劇等を手掛けた渡辺仁の設計により昭和7（1932）年に完成。現在の玄関扉や2・3階、葵紋付柵・門・石塀・煉瓦敷等の外観の大半は、昭和46・48年に新設されたものである。

書画・古美術品等は名古屋に徳川美術館を設けて収め公開されている

（豊島区目白3－8－11）

※現在は非公開となっています。

来館者の声

○懐かしい思いがしました。掃除が行き届いて清潔感がありました。
（広島　偶然　初めて　徒歩　60代　6/2）

○この絵本がいい。昔の面影がある。
（川崎　観光チラシ　初めて　都電　20代　7/10 ）

※赤い鳥コーナーには『赤い鳥』、『金の船』『少年倶楽部』などの復刻本を設置しています。

○美しい建物とお庭に古き良き時代の方達の静かな暮らしがしのばれました。今の私達が大切にしたい風景です。心のよりどころでもあると思います。
（世田谷　知人から　初めて　地下鉄 50代　7/28 ）

○娘の夏休みの宿題できました。前から一度来たいと思っていました。次回はゆっくい来たいと思います。ありがとうございました。（区内　広報としま　初めて　50代と小学生　自転車　8 /12 ）

【編集後記】

今年の夏は猛暑が続きました。10月2日より東京文化財ウィーク参加事業が始まります。昨年は外壁塗装工事で不参加でしたが、今年度は地域資料展示や講演会などを行います。朝夕の秋風を心地よく感じながら展示の準備をしています。ご参加をお待ちしています。　（角田）